

論文要旨

所属ゼミ	小林研究会	学籍番号	80730533	氏名	佐藤優子
(論文題名)					
長寿型グローバル企業のマルチ・アービトラージ戦略－日本に進出した外資系企業を中心として－					
(内容の要旨)					
<p>これまで、企業の海外進出においては、標準化による規模の経済の追及と現地化のバランスをとることこそが重要とされてきた。しかし、近年、日本では、スターバックスのように、本国の設備やメニューをそのまま移植したような企業が成功をおさめつつある。</p> <p>⇒ <u>標準化や現地化だけではなく、二国間に存在する距離(差異)の種類、幅に多様性を持ち、それを利用する戦略、すなわち、マルチ・アービトラージ戦略が、長寿型グローバル企業にとって、重要になってきているのではないか。</u></p>					
【研究対象と研究方法】					
<p>・日本市場に進出している外資系のサービス産業の企業 4 社</p> <p>長寿型企业: スターバックスコーヒージャパン、ハイアットブランドのホテル、WDI、</p> <p>非長寿型企业: カルフルジャパン</p>					
【「長寿型企业」の定義】本研究では、売上規模や利益率を評価基準とせず、参入期の後、何らかの転換期を乗り越え、日本でビジネスを続けている企業を「長寿型企业」として定義する。					
【仮説】					
<p>① 競合関係(対国内企業との差別化): 参入期には、アービトラージを生かした先行優位の確立、成長期には適応戦略が重要となる。</p> <p>② 需要条件(異質性の価値): 参入期にはアービトラージを生かした新規需要の創出、成長期にはアービトラージ戦略と適応戦略のバランスが重要となる。</p> <p>③ サプライヤー(グローバル調達と現地調達): 参入期には経済的(物理的)アービトラージを生かしたグローバル調達、成長期には現地調達が重要となる。</p> <p>④ 要素条件・立地: 参入期にはアービトラージによるブランド力確立の為の立地の確保、成長期にはアービトラージを維持する為の立地の確保が重要となる。</p> <p>⑤ 需要条件・人材: 参入期には経済的(物理的)アービトラージを生かした高い給与水準での人材の確保、成長期にも給与水準を維持する事が重要である。</p> <p>⑥ リーダーシップ(日本のリーダー): 参入期にはアービトラージの価値を理解するリーダー、成長期には現地化推進に長けたリーダー必要である。</p> <p>⑦ パートナーシップ(所有形態): 参入期には、アービトラージの価値を生かす為、現地の事情に精通したパートナーとの協力関係が必要であり、成長期には現地化を推進できるパートナーが必要である。</p> <p>⑧ 経営(本社と現地の連携): 参入期にはアービトラージを生かす為、本社主導の経営が、成長期には現地化を推進する為、現地主導の経営が重要である。</p> <p>⑨ 運営(現地拠点のオペレーション): 参入期にはアービトラージを生かす為のオペレーションの徹底、成長期には顧客に合わせたオペレーションの調整が重要である。</p>					